



「携帯型デジタルオーディオプレーヤーを使った 英語指導とオンライン教材配信」

京都市立紫野高等学校

ねらい・目的

平成19年度より、新入生9クラスの内、普通科英文系2クラス82名で携帯型デジタルオーディオプレーヤーを使った英語授業と関連教材のインターネット配信を開始した。日常の英語授業とリンクした音声教材を携帯型デジタルオーディオプレーヤーに取り込みさせ、授業や課題学習に積極的に活用することで生徒の英語力の伸長を目指すとともに、本校ホームページ内に設置したオンライン教材配信用コーナーを通じた教材のインターネット配信指導を行うことで生徒のコンピュータ・インターネットリテラシーの育成を図った。

内容

本校は、長年、短期・長期の海外留学、海外からのグループの短期・長期の受け入れ等、多彩な国際交流行事に加え、公立高校ではめずらしくコンピュータ、インターネットを積極的に活用した英語指導を展開している（平成15～17年度にはSELHi〈スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール〉指定）。

このような英語指導をさらに発展させ生徒の英語学習を促進するため、平成19年4月に入学した英文系の新入生を対象に、学校を通して販売した携帯型デジタルオーディオプレーヤーに事前に組み込んだ教科書音声教材を使った授業を開始した。また、SELHi研究継承の一環として、数年来、電子英字新聞を英文系を中心とする多くの授業で利用しているが、昨年度より電子英字新聞発刊会社が、各記事の音声データをインターネット上での公開を検討し始めたのを契機に、同新聞の文字データと音声データを携帯型デジタルオーディオプレーヤーに取り込んで日常的な英語授業に利用

できないか、平成19年度に入って同社の担当と協議を行った。

文字データは著作権の関係で学校での2次利用の許諾は得られなかったが、音声データについては同社が独自に作成したのもということもあり、同社の協力で携帯型デジタルオーディオプレーヤー用オーディオブック形式（可変速データ）に変換して同社のサーバーにおいてもらい、本校ホームページ内に設置したオンライン教材配信用コーナーから直接リンクしてダウンロードすることが可能になった（同データは現在、一般に公開されている）。

※オンライン配信コーナーには、同新聞の各記事音声サイトへの直接リンク、著作権者から2次利用の許諾を受け作成した教科書音声教材、本校で作成した各種利用マニュアル等があげられている。同コーナーはユーザー名、パスワードを入力してアクセスするアクセス制限がかけられており、本校生のみが利用可能になっている。

〈指導事例〉

- 授業クラス 平成19年度1年英文系2クラス
- 授業の進め方 1時間目。自作プリントを使い、
 - a) リスニング課題に基づいた教科書の内容理解と重要表現の理解を中心に指導する。b) 最後に、携帯型デジタルオーディオプレーヤーを利用した音読課題を与え、次の授業での録音課題に備えさせる。2時間目（写真）。a) 前の時間に課題として与えていたシャドーイング、オーラルインタープリテーションを中心とした音読活動を順次行う。b) 音声録音ソフト使い、適宜録音再生を繰り返し、最終的にベストな音読を録音し、校内サーバーの所定のフォルダに保存させる。c) 授業の最後に、自身の音読を自己分析プリントを使って自己評価させる。
 - 音声指導のポイント、意義、および生徒の学習活動を以下にまとめた。
 - ①家庭学習での携帯型デジタルオーディオプレー

ヤーを使ったリスニング・シャドーイングを予習・復習課題として与え、学習を促進した。

- ②教科書本文の内在化および音声面の強化を図るため以下に示すような活動を展開した。a) シャドーイング（モデル音声を聞きながら、音声を暗唱する活動）（録音→自己分析）。b) 音読→オーラルインタープリテーション（和訳を見ながら感情を込めて英語に直す活動）を通した表現力の強化（録音→自己分析）。c) 「言語の使用場面」と「言語の働き」を意識したコミュニケーション活動（スキット発表・口頭英作など）適宜行い、実際に使えたという達成感を体験させた。

実践結果（今後の課題）

本校は毎年7月全クラスGTEC（ベネッセ英語コミュニケーション能力テスト）を受検しているが、該当クラスはリスニング力を中心に飛躍的な伸びを示した。このクラスは他校にないさまざまな英語指導の取り組みを行っているので、どの指導による学習効果であるか厳密には検証できないが、今回の報告で紹介したような英語指導も生徒の英語力の飛躍的な伸長の一端を担ったと考えられる。年度末に行ったアンケートによると、中学での授業とまったく異なったアプローチの英語授業で、当初は多くの生徒が大きなとまどいを感じていたが、年度末には多くの生徒が携帯型デジタルオーディオプレーヤーを使いこなし、授業・課外学習に活用している様子が見えてきた。ただ、自宅と学校で複数のコンピュータに携帯型デジタルオーディオプレーヤーを接続させる関係で携帯型デジタルオーディオプレーヤーの設定を「手動同期」にして利用する指導を行ったが、この設定での携帯型デジタルオーディオプレーヤーおよびメディアプレーヤーの利用はかなり難しく、相当数の生徒が最後までとまどっていた。今後の課題としたい。

今回の取り組みで、常時持ち歩き、手軽に音声を聞いたり、インターネット・コンピュータを通して最新の英語音声を取り込むことができる携帯型デジタルオーディオプレーヤーの活用は、英語



写真・CALL教室で学習する生徒の様子

学習にとって非常に効果的であることがわかった。また、本校生に限らず、多くの高校生は、試験直前の詰め込み学習で短期記憶に知識を詰め込むだけでなかなか学習内容の定着がはかれない傾向があるが、携帯型デジタルオーディオプレーヤーを積極的に活用した日常的な学習習慣を身につかせることを通して、語学学習にとって非常に重要な要素である学習内容の内在化と長期記憶への定着を促進できるのではと期待している。また、英語指導に加えて、インターネットにつながれたCALL教室でインターネット上のさまざまな最新の英語情報を紹介し、それらの情報を自分のコンピュータや携帯型デジタルオーディオプレーヤーへの取り込む方法を指導し、授業中だけでなくさまざまな機会を利用して、自ら能動的・積極的に英語に触れさせるような指導を行っているが、今後もその指導を続けていきたいと考えている。

著作権に対する配慮等の課題はあるがインターネットを通した生徒への教材配信も、英語だけでなく他の教科にとっても大きな可能性を秘めたものである。現在本校では、携帯型デジタルオーディオプレーヤー学習をさらに促進するため、平成20年度より、英語科と理科の2つの教科が担当する総合科目「サイエンスセミナー」と英語科科目「プレゼンテーションスキルズ」において、英語科、理科、企画広報部が連携して、理科で学習する内容を英語で学習する自作英語教材の携帯型デジタルオーディオプレーヤー音声教材のオンライン配信を行っている。今後は、音声教材だけでなく、プリント教材も含め、多くの教科の教材配信の可能性を追求していきたいと考えている。